

令和6年度 学校経営方針

1. 校訓

「創造・規律・奉仕・勇気」

2. 教育目標

「ふるさとに誇りを持つ、心豊かな子どもの育成」

～幅広い人々との交流や体験を通して、たくましい社会性を育む～

3. 学校経営方針

小中併設の小規模校としての良さを活かし、義務教育9年間の連続した教育活動を通して、人とうまく関わる力を養い、心を耕し、知徳体をバランス良く兼ね備えた児童生徒を育成する。

その際、丁寧な児童生徒理解に努め、児童生徒一人一人を大切にしたいきめ細かな指導と支援に努めるとともに、本校の特長を活かした多様な体験・交流活動を推進する。

また、服務規律の徹底とともに、教職員が、健康で生き生きとやりがいをもって勤務できるよう、働き方改革を推進する。

4. めざす学校像・児童生徒像・教師像

(1) めざす学校像

- ①児童生徒を大切にし、明るく笑顔あふれる学校
- ②「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた子どもを育てる学校
- ③安全で安心な環境を保ち、気持ちよく過ごせる学校
- ④保護者や地域の期待と信頼に応え、ともに歩む学校

(2) めざす児童生徒像

- ①明るく元気にあいさつする子
- ②真剣にねばり強く学習する子
- ③勇気と責任を持って行動する子
- ④仲間と目的を共有して活動する子
- ⑤夢の実現をめざして努力する子

(3) めざす教師像

- ①児童生徒を愛し、温かく粘り強く導く教師
- ②指導力の向上をめざして絶えず研修に励み、専門性を高める教師
- ③共通の目標に向かって積極的に協力・協働し、互いに高め合う教師
- ④豊かな感性を磨き、周囲から信頼される教師

5. 基本的な教育方針(中期的目標達成のための方策)

(1) 小中併設の小規模校という特色を活かし、個に応じた確かな学力の向上に努める。

[小中協働による授業の工夫・改善、基礎基本の定着や学習規律の確立、温かな人間関係づくり]

(2) 夢や目標を持ち、その実現に向けて粘り強く努力する子どもを育てる。

[進路目標の設定と実現に向けた実践、小中連携によるキャリア教育の充実]

(3) 人を思いやり気配りできる、豊かな心を育む教育活動を推進する。

[人間尊重の精神に基づく心の教育の推進、いじめを許さない子の育成]

(4) 健康・安全教育の充実を図り、進んで体力づくりに励む子どもを育てる。

[健康・安全・防災教育の推進、クラブや部活動を通じた体力・運動能力の向上]

(5) 仲間とともに協力し、汗を流して活動することの成就感や達成感を味わわせる。

[子どもが積極的に企画し参加する学校行事や部活動、諸活動を通じた充実感、達成感の共有]

(6) 多様な人々との交流やふれあいを通して、ともに生きる尊さを学ばせる。

[地域行事への積極的な参加、地域の人々や仲間とのふれあい体験の重視]

(7) 学校・家庭・地域の絆を大切にし、信頼される学校づくりに努める。

[子どもの生活環境を把握し、課題に適切に対応する組織体制の確立、コミュニティスクールの推進]

6. 令和6年度の重点的な取り組み

(1) 人間尊重の精神を基盤とした「心」の教育

- ①友達を大切にし、互いを思いやる心を育む道徳・人権教育を推進する。
- ②内川小中学校の一員としての自覚と責任を持って行動する児童生徒を育てる。
- ③ふるさとの豊かな自然や文化に親しみ、生き生きと活動する児童生徒を育てる。
- ④異なる立場や考えを受け止め、自分の行動に活かそうとする児童生徒を育てる。
- ⑤様々な活動を通して、児童生徒同士や教師との確かな「絆」づくりに努める。

(2) 個々の状況を踏まえた温かくねばり強い生徒指導

- ①規範意識を育み、集団生活にふさわしいルールやマナーを身に付けさせる。
- ②日常の会話や観察を通して個々の児童生徒理解を深め、適切な指導と支援に努める。
- ③いじめや不登校の未然防止をめざし、日頃から児童生徒の状況を的確に把握する。
- ④特別な支援や配慮を要する児童生徒について共通理解し、組織的な対応を図る。
- ⑤気になる状況や問題行動について丁寧に情報交換し、安心して生活できる環境を整える。

(3) よく考え、学び合う子を育成する授業づくり

- ①金沢型学習スタイルの推進と本校教育課程の確実な実施を図る。
- ②問題解決型学習を基本とし、個やグループで考えて深める場を工夫する。
- ③ICTを効果的に活用して、自分の考えを分かりやすく表現するよう指導する。
- ④継続的・計画的な補充学習に努め、学力保障と学力向上を図る。
- ⑤授業評価やアンケートを通して、わかりやすい授業づくりに向けて研究実践する。

(4) 健全な心身と可能性を育む特別活動・部活動

- ①学校行事を成長・発達の好機として、アイデアや工夫を活かした内容の充実を図る。
- ②児童生徒が自他の命を尊び、健康で安全な生活を保持するための指導を推進する。
- ③登下校時における交通ルールの指導を徹底し、交通安全意識の定着を図る。
- ④災害の経験を踏まえ、課題を絞った安全・防災教育を実施する。
- ⑤健全な心身を育み、運動能力の向上をめざす部活動やクラブ活動の充実を図る。

(5) 保護者や地域からの期待と信頼に応える学校づくり

- ①各種たより、ホームページ、配信メール等により、積極的に情報発信と交流を行う。
- ②地域公民館や関係団体との連携を深め、地域と一体となった指導に努める。
- ③具体的なテーマを絞り、小中一貫教育に関する協議と実践を深める。
- ④コミュニティ・スクールを推進し、本校教育活動の充実に努める。
- ⑤校内の自主的な学習機会(OJT)や各種の研修を活用し、自らの資質の向上を図る。

7. 教育成果を高めるための教職員集団の組織力向上

(1) 信頼され尊敬される教職員に 「児童生徒が理想とする大人」

- ① 教育に情熱を、児童生徒に愛情を持ち、成長に使命感、責任感を持つ。
- ② 豊かな教養と教育的専門性を備えるために研究と修養に励む。
- ③ 時代の変化を理解し、常に改革し向上する姿勢を持つ。
- ④ 豊かな人間性を備え、場に応じたコミュニケーション能力を持つ。
- ⑤ 服務規律を遵守する。

(2) 学校組織の機能化と学校力の向上 「チーム内川」

- ① 職員全体が組織の一員として学校運営参画意識を持ち、チームで業務を遂行する。
- ② 学校のミッションを理解し、学校目標の実現に向けて全職員がベクトルを合わせる。
- ③ 「さしすせそ(最悪を想定して・慎重に・すばやく・誠意を持って・組織的に)」を合言葉に、報告・連絡・相談を徹底し、課題に対して組織的に対応する。
- ④ 信頼し合い、学び合い、切磋琢磨し合う教師集団となる。

8. 教職員の業務適正化に向けた具体的な取り組み

(1) 月時間外勤務80時間未満の実現

- ① 月2回定時退校日(No残業Day)を設定する。
- ② 平日 7:30~19:00(→時間外3時間)×20日=60時間
休日 9:00~12:00(→時間外3時間)×4日=12時間 合計=72時間

(2) 最終退校時刻の目標を設定する。

夏期…19:00 冬期…18:30

(3) 部活動の休養日は、原則として、週2日以上、平日1日と土曜日又は日曜日とする。

(4) 部活動の1日の活動時間を設定する。

平日…2時間以内 学校の休業日…3時間以内

(5) 職員会議等を活用し、教職員の意識改革を促進する校内研修を実施する。